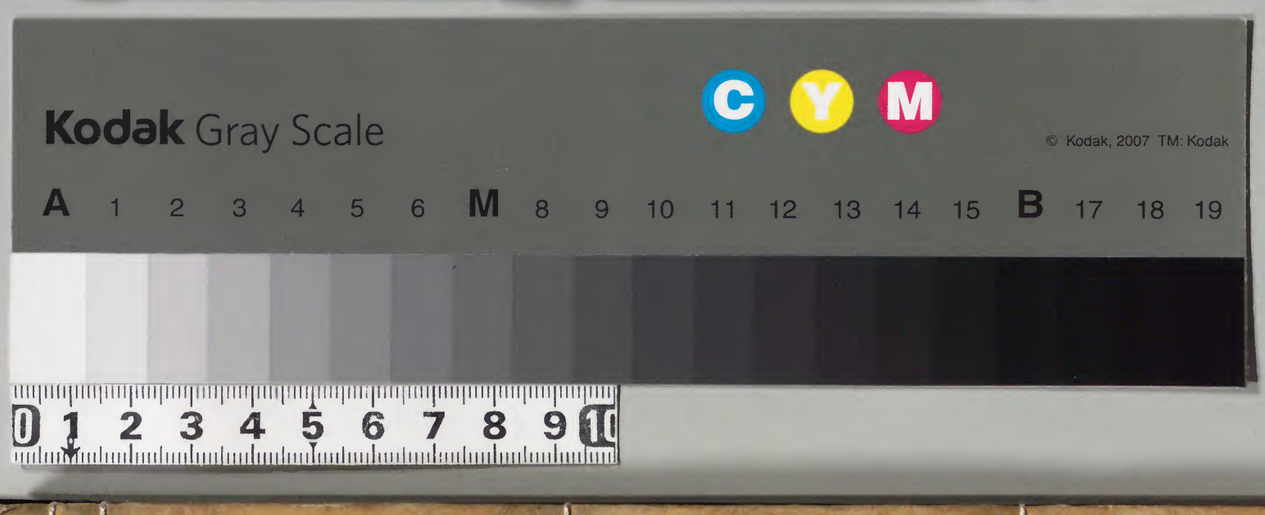

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
番號 和 42613
冊數 47 (43)
函號 184 3v4

和書門
類號 四三六一三
函架 三四
冊數 四十四

内閣文庫
和書
類號 四三六一三
函架 三四
冊數 四十四

陸奥話十六号

三十一

津軽方言集

華夷變態三十一

一 弘生元年南京船唐人生口

弘生南京船唐人生口

一 私共南京船乍唐人生口

数四十人余組之南京船沖仕舞之唐人

沖仕舞之生口影私共を被売買之唐人

影中ニ而も生口売買仕候事ニ定而売

船之内ニ而生口売買仕候事ニ御座候

ようニも不通候ハ、着岸仕候上ニ而

急ニ為之候ハ、入津仕候由ニ而生口

八ヶ敷御沙汰ニ而も御座候ハ、其節

御下知之通可仕候事ニ御座候

[illegible]
毎年[illegible]
[illegible]
[illegible]

三番寧波船

一私領長崎江着岸之唐人数
三拾三人寧波ニ而乗組之
船同年六月十八日ニ寧波ヲ出帆
當月十二日ニ薩州ノ
寧波ノ商舘ニ住居之唐人
江連判之書物ヲ渡
次ニ薩海ヲ往来
仍而之例ヲ
彼知行所ヲ
入津之事ニ候
毎年長崎ニ
泊ル
船数多
悩シ申ニ
為ニ
ヲ吹出シ
共義
薩海ヲ
仍而

申二月十八日　風波急ニ

旧書面ニ於テ御申立ノ
庶人数ニ十五人ニ
余ノ処ヨリ
帆仕ノ
時仕ノ武書ニ
御ニ数ニ仕ノ
荷物拾条ニ
御ヲ上海ノ
差紙ヲ
差紙ニ
地券
証書ニ
証書ニ
仮薛文郭
御ニ
ヲ次ニ
仮ニ
自湖州
仕ノ
銭ニ

此出於風雨仕業と思ひ候へ共、
通ら入候仕方無之候へ共、
事ニ候へ共、御届申上候事
ニ候へ共、
右之通ニ候
申
二月十九日
風説之儀
廣島

去年ノ戒ニ於テ多端細件ヲ附記シ
官職ノ昇降ヲ以テ法ヲ設ケ而ル後
モ尚ホ未ダ能ク
意ヲ盡サズ依テ更ニ戒箴ヲ編シ
之ヲ頒チ永ク
容ニ遵ヒ而ル後
戒ニ背カザラシメント欲ス
此ノ仁ニ依リ
一層ノ周密ヲ加ヘ
海内ノ衆庶ヲシテ
一般ノ風俗ヲ作興セシメ
朕ノ意ヲ體認スベシ

朕モ亦タ
皇考ノ
業ヲ繼キ
皇祖ノ
宏謨ヲ
紹キ
皇祖ノ
大誥ヲ次ニ大誥ヲ公ニシ
皇考ノ
志ヲ述ベ去年ヲ當
ニ和人ノ
亂ヲ討ツニ
皇祖ノ
遺ヲ繼ギ
皇考ノ
志ヲ述ベ
皇祖ノ
大誥ヲ次ニ大誥ヲ公ニシ
皇考ノ
志ヲ述ベ去年ヲ當
ニ和人ノ
亂ヲ討ツニ
皇祖ノ
遺ヲ繼ギ
皇考ノ
志ヲ述ベ
皇祖ノ
大誥ヲ次ニ大誥ヲ公ニシ
皇考ノ
志ヲ述ベ去年ヲ當
ニ和人ノ
亂ヲ討ツニ
皇祖ノ
遺ヲ繼ギ
皇考ノ
志ヲ述ベ
皇祖ノ
大誥ヲ次ニ大誥ヲ公ニシ
皇考ノ
志ヲ述ベ去年ヲ當
ニ和人ノ
亂ヲ討ツニ
皇祖ノ
遺ヲ繼ギ
皇考ノ
志ヲ述ベ

中二月十九日　　内閣総理大臣　伊藤博文

国立公文書館
National Archives of Japan

六番寧波船ニ唐人共ノ口

一私共船ニ病ヲ煩ヒ候唐人数人相残シ寧波ヨリ仕出シ
候故出帆用十二日ニ普陀山ヘ船ヲ寄
用事申聞候日普陀ヨリ出帆仕候而
候寧波ヨリ船ヲ通ル船ヲ待ヲ慥ニ
申私ノ船ヲ出シ候ヲ待ヲ慥ニ
ヨリ候仕出シ候ヲ船ヲ出シ候ヲ被
支度仕立ル時ハ船ヲ出シ候ヲ被
下候ヲ事ヲ支度仕候ヲ門洋中ヨリ義

手ヲ候仕出シ候ヲ船ヲ出シ候ヲ被
申候ヲ船ヲ出シ候ヲ慥ニ
胡椒薬減ヲ高候ヲ船ヲ出シ候ヲ被
ヲ船ヲ出シ候ヲ被又大清減法着ヲ
寧波ヲ候仕出シ候ヲ去年ヲ減船
多ヲ候ヲ仕事ヲ候ヲ船ヲ出シ候ヲ
ヲ候減船ヲ出シ候ヲ船ヲ出シ候ヲ
仕向唐船ヲ寧減ヲ候ヲ船ヲ出シ候ヲ
商船ヲ減船ヲ出シ候ヲ船ヲ出シ候ヲ
船ヲ候仕出シ候ヲ船ヲ出シ候ヲ

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]
[illegible]
[illegible]

八番南京ニ於テ唐人共ヨリ

一私共ニ於テ南京ニ唐人共ヨリ注文ニ有之候

数ヲ指越候ハヽ其通ニ有之候ハヽ其数

渡海仕候ヲ第一ニ相心得可申候ニ付

其出シ申ニ付テハ其数ヲ取調

以前ニ入津仕候ハヽ其数ヲ取調

被渡海候ヲ第一ニ仕候ニ付テハ其数ヲ取調

等閑ニ仕候ヲ第一ニ仕候ニ付テハ其数ヲ取調

私ニ数被仕出シ申ニ付テハ其数ヲ取調

義ニ候間渡海仕候ニ付テハ其数ヲ取調

九番南京船唐人共口

一私共儀も当春南京より当湊江着船仕候処
去る酉十月十日ニ上海より渡来候
海賊上陸仕私共船ニ乗込
私共被奪取候ニ付
帰帆仕候ニ付
帰帆被仰付候ニ付
帰帆仕候ニ付
帰帆被仰付候ニ付
帰帆仕候ニ付
帰帆被仰付

十書南京新聞唐人共中口

一私共ハ成ル丈南京ニ留ル事ヲ
教ル者ハ人家ヲ以テ当ル事ヲ
決シテ往来ニ唐人
決シテ私共ハ私ノ
此前地ニ部中ニ私
ヲ決シテ
決シテ決シテ
共モ客前ニ招
ヲ以テ私ノ
日和ヲ地ニ

指て書面京都於て唐人共ニ
一私共於長崎も同所之役人
数ヶ箇所ニ人数を当月十二日ニ彼地被仰
付候海辺之御台場ニ而御固
申候数ヶ所之御台場ニ
遠見仕候ニ付而ハ昼夜共ニ
番ニ相詰候ニ付而ハ先ニ帆ニ而
文ニ而被仰付候ニ付相詰
前ニ御渡遊候ニ付而ハ
彼ニ而も彼年ニ而も
知仕候ニ付而ハ
之者ニ而候間御用
被仰付候ニ付而ハ
御用大成ニ而も年ニ
彼ニ而ハ御用
大切ニ成候ニ付而ハ
表ニ統ニ候ニ付而ハ
人共ニ而ニ付而ハ
余ニ而ニ付而ハ

指示書南京攻略戦参加者ニ
一私共私儀南京攻略戦ニ参加ニ際シ
人数ニ拾八人ニ高級ニ
勅私儀両仕ニ
中ニ私儀被
ニ帰ニ
没後ニ
次第ニ
両洋中ニ
両ニ

次王宮攻撃ニ
指示ニ
有ニ
両私ニ
没後ニ
没地ニ
ニ
其ニ
ニ
ニ

申二月廿日　唐参事官

風説定役

指出書南京於テ唐人

一私共儀南京ニ而上海ゟ往来之唐人数拾人乗組
出私儀海上ニ而数日逗留之内ニ彼地ゟ新ニ
之唐人弐人乗組申候ニ付右唐人ニ対し
委細ニ尋候処左之通ニ而彼是ニ而も変事無
之候ニ付・・・・・同様ニ而候ニ付去年
六艘連船ニ而交代ニ出候儀ニ而候哉
彼地ニ而ハ何程位ニ而交代ニ出候哉

脳中感而着し守候なり来る通
之ては我国と和兵出和之細而着之ては
勅書而まて而和漢和兵漢和兵之家ニ
人数改武之ホと而改而和ホい能
武威ニ和と理人と之中ニ者ニ而ニ驚官
ホ知之ては而ホ而ホ而ホ

於書寧波於唐人事

一私生新痴七歳ノ時寧波ノ住生ノ唐人
教ヒ給ヲ人家ニ至ル月十七日ニ彼此戯書帰
國後ハ互ニ音信不通ノ事ニ候然ニ私先ニ彼書ヲ
家ニ藏シ置候処ニ頃日新ニ彼書ヲ取出シ
三被申越未入御手候仕事ニ候ヘ共彼書ヲ取
寄彼ノ出私住ヲ知リ度ノ事ニ候ヘ私ニ彼ノ筆ヲ慕ヒ
申ス事ニ候ヘ共彼ノ三ヒ被ノ事ニ候ヘ共
年ノ寧波ニ至ル事ニ候ヘ共彼ノ書ヲ取寄ル
ヲ好ム事ニ候ヘ共彼ノ少ノ書ノ数書ニ候ヘ

指六番寧波ニ於テ唐人ヨリ

一私共ニ於テ寧波ニ而寧波ヨリ往ス唐人
数四十七人ニ而十七日類私ニ被
私共ニ而ハ風並悪敷ニ而ハ無之候ニ漫口ヨリ出帆仕候ニ
同漂流漸ク五日ニ而ハ無之候ニ漫口ヨリ出帆仕候ニ
つゝ而ハ無之候ニ而寧波ヨリ唐船ハ不往候ニ
私共ニ而ハ寧波ヨリ唐船ハ不往候ニ
私共被
寧波ヨリ文
寧波ヨリ往ス唐人
私共被
寧波ヨリ文
寧波ヨリ往ス唐人
私共被
寧波ヨリ文
寧波ヨリ往ス唐人

国立公文書館
National Archives of Japan

大清欽命有
[illegible]
[illegible]
[illegible]

拾八番寧波府ヨリ唐人九十四
一艘ニ而寧波ヨリ仕出シ唐人
数四拾八人乗組ニ而同寧波ヨリ二月十七日ニ渡海仕
出ル船ニ而仕合ニ而ハ無之候ニ付
漂着ニ候哉出帆ニ而ハ無之候ニ付
難船ニ而ハ無之候ヘ共仕合ニ而
罷渡候事相違ニ而ハ無之候ニ付
江戸御城ニ而ハ無之候ニ付
我ヲ不改ヲ以テ長崎ニ而取次
引合ヲ以テ可申哉ニ付

拾九番

一 船主 船名 唐人数 乗組 積荷 渡海地 渡海目的 渡海年月 帰帆年月 帰帆地 帰帆目的 入津年月 出帆年月 出帆地 出帆目的 入津年月 出帆年月 出帆地 出帆目的 入津年月 出帆年月 出帆地 出

一私共部屋南京町ニ居住仕候唐人数凡十三人家族之内二月下旬頃地震ニ而家潰候ニ付取敢ず海辺ニ小屋掛仕候処又候大地震ニ而山崩ニ相成候ニ付又候

以指令書南京航空隊ニ居ル人ヲ以テ
一、私先般ハ御世話ニ預リ南京ニ向ヒ海ヲ往来ニ居ル人ヲ以テ
救ヒ頂キ人家ニ届ケ頂キ誠ニ有リ難ク厚ク御礼申シ上ゲマス
帆波海仕ニ上陸ヲ遂ゲ敵ノ為ニ捕ヘラレ
通訳ヲ務メ居リマシタ者ニ御座イマス
未ダ名ヲ告ゲマセンデシタガ
海仕ヲ名乗ル大風ニ遭ヒ漂流中モ深
海仕ヲ名乗ル元気ヲ第一ニ
入港仕ル前ニ於テモ敵ニ備ヘ砲撃ヲ加ヘ
船ヲ用意仕ル迄ニ於テモ敵ニ
ヲ攻撃仕ル為ニ海中ニ飛ビ込ミ

国立公文書館
National Archives of Japan

一私共航海中風波ニ逢候節ハ
双印旗ヲ
帆檣海往上海ニ
地ニ近ク
ニ津東ニ往ヨリ
内ニ洋中ニ
先ニ成ル
日ニ
ニ
ニ

一私共乗組之儀寧波ニ於テ唐人
人数三拾五人之内寧波ニ而仕出シ
手当ニ而新ニ雇入候唐人拾八人
内ニ而新ニ雇入候唐人拾壱人
寧波ニ而仕出シ候唐人拾壱人
乗組之儀ハ去年ニ而新ニ雇入候
仕候事ニ而ハ無之候ニ付
退役仕候事ニ而ハ無之候ニ付
新ニ雇入候唐人拾壱人
寧波ニ而仕出シ候唐人拾壱人
退役仕候事ニ而ハ無之候ニ付

新ニ雇入候唐人拾壱人
寧波ニ而仕出シ候唐人拾壱人
退役仕候事ニ而ハ無之候ニ付

国立公文書館
National Archives of Japan

一私儀病気ニ付唐人共ヲ
唐人数五拾名余
翼之助ニ有之候ニ
出私儀海上ニ
八月廿二十六番
前ニ殿船ニ
相拾条ニ
安国寺ニ
是ニ付私
唐人ニ付
唐人ニ付
唐人ニ付

中
三月廿七日　唐ニテ

山東湖廣福建ニ着ハ兼数之趣ニ
テ人民開業仕
候ニ付テハ
別ニ船ヲ以テ及ヒ
出又帝劇ヨリ海城逮捕ニ和着次第
直ニ横浜ニ於テ人数改ノ筈ニ
御座候ニ付テハ
決シテ船ヲ離レ
候儀ハ
不相成
候間此段
御届
申上
候也

十月二日

唐

三拾番南京船唐人共中ニ
一私共船ニ而唐人
数四拾人乗組ニ而上海ニ而仕組
出帆仕候処上海より五日路
ト申ス所ニ而数艘之海賊ニ
逢候ニ付防戦仕候得共
多勢ニ而無是非
乗取ニ相成候ニ付唐人
共ハ私共ニ衣類ヲ着セ
置候ニ付海賊ニ
唐人ニ而ハ無之
日本人ニ而ハ無之
哉ト申ス事ニ而
私共ハ
助ケ置候
由ニ而
上海ニ而
仕組候
唐人
二月廿三日
出帆仕候
上海より
五日路
ト申ス所ニ而
数艘之
海賊ニ
逢候ニ付
防戦仕候得共
多勢ニ而
無是非
乗取ニ
相成候ニ付
唐人
共ハ
私共ニ
衣類ヲ
着セ
置候ニ付
海賊ニ
唐人ニ
ハ無之
日本人
ニ而ハ
無之
哉ト
申ス
事ニ而
私共ハ
助ケ
置候
由ニ而
上海ニ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

清官滅之云年冰指之書ニ於テ實仕候
ハハ家没うる私ニ生ニ於ル之事
次ニ大清國滅法者共ヲ靜謐ニ仕候
御名稱速ニ集湖廣ヘ三省之ヲ兼
數年熟ニ之事ニ候ヘ共ニ集者ハ私ニ之
窮民多之事ニ候法ヲ以テ救ニ之事
ハ費重之ニ付當春小兵ヲ湖南ニ
者ニ無智ニ之ニ付追捕ニ勤ニ之事ニ
有無智ニ官ヲ海賊ニ候ヘ法官ヲ海ニ

高松藩松平家ニ於テ之ヲ滅私ヲ經ヲ事ニ之ニ候
ヨハ吟味仕候ヘ共ニ私人數ヲ多ク
没ヲ事ニ私ニ於テ之ヲ改ヲ法ヲ之ヲ仕ヲ
ヲ滅私ニ追捕仕候ヘ共ニ私ニ於テ
ヲ事ニ之ニ候ヘ共ニ由ニ私ニ仕
ヲ大ニ之ニ候ヘ共ニ人ヲ中ニ之ニ
ヲ事ニ之ニ候ヘ共ニ

申
六月三日　　風説之扱

唐ヲ之ヲ

三拾弐番寧波行客人李
一紅毛船寧波行客人高
人数弐拾弐人高四百弐拾七石
出帆後海上にて風悪敷
之為に水主客人相談の上
海岸へ着船仕候処
仲風も無之候ニ付
弐日程逗留仕候
海上にて風悪敷
候ニ付入津
書付之通

中

十二月十二日

三拾二番 臺灣 新北庄人 李阿

於て活氏小畜妻と生成雄雌を
大約束を悪くして
京城と人数九て以降の妻と
ら成多許妻と氏渓於て為も列ら大約を
雄来の妻活氏ら南京書ら蔵
湾小南妻と約成ら私約多妻妻と
約束ら名行ら義妻一約と
ら漢と言ら事ら角福湖江南京福
速て活荷来を約改ら約束ら
妻面と成を為ら物又還還来浦寨

咬喝吧廣南東京ま
ら接ら事ら約束ら妻と大活
ら活氏ら事ら妻ら
京妻廣人ら
申六月初日 風波定汲
妻妻ら日有
唐妻ら事

三拾四番廣東船唐人乗口

一私共船ハ廣東ヲ出帆仕候節ハ廣東地方ニ而ハ疫病流行仕候ニ付唐人
数江船之人数ニ而ハ無之候得共船中ニ而疫病ニ而相果候者
私共船ニ而ハ疫病ニ而相果候者無之候得共外船ニ而疫病流行仕候ニ付
為念廣東ヲ出帆仕候節ハ廣東地方ニ而ハ疫病流行仕候ニ付
先招漳州仕候ニ付漳州ヲ出帆仕候節ハ漳州ニ而ハ疫病流行仕候ニ付
為念寧波ニ而ハ疫病流行仕候ニ付寧波ニ而ハ疫病流行仕候ニ付
為念廣東ヲ出帆仕候節ハ廣東

海上ニ於テ
小衆ヲ集メ
海賊逮捕ニ
厳重ナル
ホトヲ
ヲ経海賊
外国ノ
左ノ
居人
ノ
中
六月

三拾文書廣東船ヲ唐人共中口

一私共船ヲ以テ俊生ヲ廣東城下ヲ仕出シ唐人
数ヲ指乗人参組ヲ前文月十六日昌真
官ヲ申為船ヲ以テ彼地被出帆海
海仕ル昌今朝中ヨリ右船八先達
入津仕ル之指ヲ要船ヲ廣東
本湊海船ヲ以テ前分仕出シ中船モ安
心産ル乃船招湊言別海南分仕出シ
之船モ可申産ヲ以テ雑斗事有

但寧波航海之舟渡海而至廣東之外海崑
崙洋一帶地方會有夷人之舟駕至廣東白蓮
花塘灣泊貿易之舟名之曰走水又曰走
鷄走水中所載之貨又曰走鷄貨之後
船中人又回海至夷屯廣東白蓮花塘三
五日復回舊處名之曰回洋中所載之貨
名之曰回洋貨之後船中人又回海至
息兩港地方名之曰轉港船之內洋中
未發貨之前船中人先將銀兩寄頓
船家之家中一面下艙之日船方開
行之後船中人又將銀兩起出而
船家之家中人又將銀兩還之
一面下艙之日船方開

右之通唐人共申口書有之候ニ付
以上

申六月六日

風信定役

唐通事目付

唐通事

一去ル酉ノ夏台湾船ニ唐人共乗
唐人数ハ拾九人ニ而福建之門台湾ニ仕出シ
候ニ付而ハ

当護方城船長
為船須船水兵
幸天人
矣許
味之通中
屢ノ表
消息
我
洋中
也
為船
幸天人
矣許
味之通中
屢ノ表
消息
我
洋中
也

一船ニ乗候ニ付福建之門ニ而渡世仕候ニ付
人数弐拾弐人ニ而組合申候ニ付
船代銀七拾弐匁宛出銀仕候ニ付
乗中ニ而渡世ニ相成申候ニ付
乗船之門ニ而渡世ニ相成申候ニ付
乗船之門ニ而渡世ニ相成申候ニ付
乗船之門

付ニ而ハ弐艘ニ而定ニ候ニ而ハ
事ニ候ニ付来ル
外廻リ表ニ而ハ
不申ニ候ニ候
船ニ候ニ而ハ
ニ而ハ候ニ而ハ
中ニ而ニ候ニ
差ニ候ニ
清ニ候ニ
中ニ候ニ
ニ而ニ候ニ

申六月十日

南通事

三拾八艘台湾船ニ而人
一船ニ付弐拾人宛
人数三拾九人乗組ニ而台湾ニ住ス
我出船漂流仕候ニ付
船ニ而破船ニ而漂着仕候ニ付
乗中ニ而弐艘ニ
合四艘ニ而七月廿日ニ
壱艘ニ付拾人宛
壱艘ニ付弐拾人宛
以外ニ台湾ニ而
台湾寧波福州
乗人ニ而ハ
船ニ而破船ニ而漂着仕候ニ付
乗中ニ而弐艘ニ
合四艘ニ而七月廿日ニ
壱艘ニ付拾人宛
壱艘ニ付弐拾人宛
以外ニ台湾ニ而
台湾寧波福州

和ら海洋仕ん事ら
指七事ら船ら乃ゆ
俄ら乃ゆ所ら
よ七ま事ら大法ら
地ら乃ゆ事ら布事
厦つ表ら報ら
俄承事ら
よ俄ら乃ゆ
ゆ通商人
いよ

申ら月十一日

風信定役
商通事目付
商通事

三指ら事ら
一船ら俄ら元寧波ら
湾ら所ら彼地ら
ゆら商地ら到十

二船ヲ味方ノ内ニ付ケ寧波ヘ寄港ノ
事ヲ申入ル事ヲ約シ寧波ヘ着シ候ハヽ
寧波ヨリ帆仕舞ノ有之候ハヽ
ヒラ門ヨリ出帆仕ル筈ニ付テハ
君主ヨリ改テ御案内ノ者ヲ招候事ヲ
願ヒ出ル事ヲ約シ寧波ヘ着シ候ハヽ

時之内浦別ニ而新ク南京
浙江福建之外海ニ而
吟仕候事 私共義も船
渡り申候 且又寧波表ニ而
之私之船作之儀ハ
御断申候 其仕方之
列ニ而申上候もの
如之義ニ而人共申ニ付
申六月十二日

風祭定役
唐通事目付

一私共義ニ候ハ、寧波ニ而
九人乗ニ而
産之荷物御用ニ而
洋中風不順之節
月晦日ニ無御座候ハ、
唐通事

一指出候唐人共中ニ
私共義ニ候ハ、寧波ニ而
九人乗ニ而
産之荷物御用ニ而
洋中風不順之節
月晦日ニ無御座候ハ、

除而月三日ニ普陀山ヲ
出帆シ寧波海仕ノ
内ヨリ定ノ如ク
唐人共一所ニ
寧波ヨリ
乗渡シ
寧波ヨリ
唐人共ヲ

白志ヲ申ス者ニ船ヲ出ス
普陀山ヨリ和仕ノ受取
候ヲ差ス者ニ
右ヲ通唐人共申ス
申六月十三日
唐通事

風待定役
唐通事目付

四番
一 厦門船ヲ唐人共申ス
一 船共船ヲ我ヲ出ス者ニ
一 寧波ヨリ仕ヲ渡ス者ニ
一 別船ヲ乗ル
一 積荷ヲ行ヒ
一 乗組人数ヲ
一 日厦門ヲ
一 出ス者ニ
一 別船ヲ
一 曲承ノ

度ニ而ハ改テ
例年漕ノ仕セニ
度ノ内ニ船漕ノ仕セ
順ニ雑斗等ハ
お船ノ後ニ而ハ
ニ而漕津ニ
大村ノ津ノ
地ノ下速ニ
船ノ而ハ
ノ而ハ深ク仕ル

ニ船ハ柄ノ宿後ニ
船ノ船ノ仕ル
年ニ而ハ船ノ
ニ泊静穏ニ
ノ而ハ
ノ而漕船等ハ
ノ事船ノ
南風吹ニ
ノ而風ハ仕ル
仕ル於座ノ

可申上候委細之儀
右之通唐人共申口ニ付書上候
以上

申六月十八日　　風説定役
　　唐通事目付
　　唐通事

一　弐拾弐番福建船　船主　何官人
一　私共船ニ候福建之内ニ台湾ニ仕出し
人数弐拾弐人乗組
我出帆漳浦仕候而
翌廿四日ニ彼地
ゟ台湾ニ着仕候
入津仕候而私共船ニ積渡り候反物売買
等ニ取掛り候処
去ル十七日ニ南澳沖ニ
逆風ニ逢漂流仕
非人村ニ漲着仕候

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 私共船之儀ハ南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
参候処ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
私共船ニ乗組居候内ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
同湊ニ而私共船ニ先達而 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
ハ船中ニ而ハ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
未年ニ而ハ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
座候ニ付 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
候ハ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
叶船ニ候ハ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而

ハ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
地ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
候ニ付 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
船中ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
之ニ付 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
今度渡船ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
ニ地ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
清ニ船ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
船ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而
同ニ 南京ヲ出帆之節ハ人数拾人乗組ニ而

俄僧着之寧波ヨリ福建
南京浙江等之海上ニ繞船多ク佃仕
候ニ付テハ帝都ノ方ニ於テモ依勅使
警方無覚束向ヶ追捕仕ノ事今猶不
絶且退散仕ノ曲風聞ニ付テハ諸往来之
者ニ於テ改等弥吟味相加
候ヲ以テ申ス迄ニ共而申上ノ外無之
旨ニ候ハヽ此ノ度ハ
其後如何ニ哉ノ書翰ノ
右之通唐人共申口之趣
風説定仕

唐通事目付

唐通事

申七月十一日

一私共儀去ル酉年南京船之儀ニ付
被仰渡候ニ付テハ海上之儀ニ付テハ
出船渡海仕ノ上ニ於テ一艘
当地ヨリ着岸仕候ハヽ

申七月十二日　風位定役

唐通事目付

唐通事

一去ル酉ノ夏台湾ニ而ノ南京ノ内ノ上海ノ仕出シ
商売ニ台湾ニ而ノ渡海能地出来ノ砂糖
并ニ台湾ニ而ノ商売人数ニ拾弐人乗組

ノ酉四月十三日台湾出船仕同廿八日ニ
上海ノ湊ニ戻リ乗積ノ諸荷物ノ売捌等
六月朔日ニ定海ノ湊出ニ中ノ知洋中逆風
斗ニ而ノ荷ノ儀ニ付難ニ湊ニ戻リ湊ニ
戻リ湊ニ而ニ同廿八日普陀山ノ脇ニ
ニ而風ニ而ノ荷物ノ内月ノ日普陀山ノ後
出帆ノ時ノ渡海ノ内ニ洋中ニ而ノ俄ニ
ニ而ノ座ニ地行ニ而ノ船ニ而ノ不
中ニ而ノ日ニ而ノ台湾ニ而ノ船ニ而ノ
船ノ日ニ而ノ地ニ而ノ船ニ而ノ

又海船ニ而も都而渡海之者度仕候ニ
ハ必ス御朱印ヲ受取申候ニ付津浦ニ而
ハ御朱印ヲ改候ニ付海上ニ而ハ改候
由ニ而唐湾ニ而ハ改不申候又ハ来航仕
候ニ而も御朱印ヲ受取申候ニ付海表ニ而ハ
改候ニ及不申候ニ付而ハ海賊抔ニ而ハ
無之候ニ付而ハ海上ニ而ハ改候ニ及不申
右之船ニ而ハ委細可申上ニ而ハ無之候
尤御朱印ヲ受取申候ニ付海賊抔ニ而ハ
無之候ニ付而ハ海上ニ而ハ改候ニ及不申
等相改候ニ而ハ無之候ニ付而ハ改候ニ及不申候
船ニ而ハ鄭衡儒義ニ去年一八度渡海仕
候ニ而ハ海上ニ而ハ改候ニ及不申候
船ニ而ハ初而渡海

次ニ大清ニ而ハ渡海之者共ニ海寧縣ニ而ハ
中ニ普陀山ニ而ハ渡海之者共ニ而ハ御朱印ヲ改候
候ニ而ハ御朱印ヲ改候ニ及不申候
船ニ而ハ御朱印ヲ改候ニ及不申候ニ付
船ニ而ハ御朱印ヲ改候ニ及不申候ニ付
別ニ委細ニ而ハ無之候

右之通唐人共申口書付ニ而ハ無之候

風説定役

唐通事目付

唐通事

一私共船之儀福建之門乗湾ニ仕出之商人
数之指出人数相改之上出帆申候
出帆申候福州ニ船改受候而
船改受候ニ付六月二日ニ寧波ニ着
着候福州出船仕候地ニ而
条清船仕候地ニ而
同十六日寧波着出船ニ付
斗ニ而出ニ付清中逆風
寄着候中船数拾艘
着候ニ付寧波湊口ニ風待仕
寄着候ニ付寧波湊口ニ風待仕
候而ハ
寄着候中ニ而
若船数着湊ニ付
海仕候次ニ大清
船着候ニ付
仕候而海上ニ
湾より数艘
出帆申候
出帆申候
由ニ而

一私共船之儀唐人共中ゟ
人数之指図人等ニ而
渡海仕候ニ付而ハ
海上等ニ而船ニ
乗候ニ付而ハ
唐通事
唐通事

一私共船之儀唐人共中ゟ
人数之指図人等ニ而
渡海仕候ニ付而ハ
海上等ニ而船ニ
乗候ニ付而ハ
唐通事
唐通事

船を以て同津を
出帆せんとする
に当り未だ其の
筋の
御免を蒙らず
私ども船を
出すことを
得ず
依て
御免を蒙り
出帆仕り
候様
御取計
相成度
此段
奉願上候
以上

国立公文書館
National Archives of Japan

右の
通り
御免を蒙り
出帆仕り
候間
此段
御届申

唐人共可申上之事有之候ハヽ
可申上候尤唐人共之内ニ
右之通唐人共江
可申渡者也

申七月十六日

風祭定俊

唐通事目付

唐通事

一私共儀長崎ニ而
唐人共江
申渡候ハ
唐人数三拾六人
被出帆六月廿日寧波ニ着
同月廿四日寧波出船仕候海上
無滞
当湾ニ着
当地ニ而
御用相勤
候儀ニ付
寧波表ニ而
申渡候
御法度之
趣
唐人共江
申聞
差図ニ
相従
御用
相勤
候様ニ
申渡
候事

集治方長ヨリ来達ノ可仕ヲ以テ私共儀
渡航ノ用意申付候儀ニ付テハ
本文地何モ私共ニモ不中出ノ日
我入津ノ節吳七官儀ヲ以テ指
九重私方宿仕ノ渡中ニ而渡ス私共
ヲ以テ私方ヨリ次ニ大清ヲ以諸著
ヲ以テ別ニ靜謐ヲ以テ表
ヲ以テ清息ヲ以テ差達ヲ以テ清仕ル儀ヲ
唐人ヲ以テ委細可申上ヲ以テ
以テ此度寧波ヲ以テ清私ヲ以テ彼地ヨリ

依テ如件
如モ差産ル
右之通唐人共申出ノ儀ニ付別ニ可申上候
以上

申七月十八日

唐通事

唐通事目付

唐通事

一船ヲ以テ後ヲ追テ御来ル
人数ヲ捨テ人ヲ乗セ
跡ヨリ船海仕ル筈ニ
揖ヲ捨テ既ニ沉瀬ヲ
命ニ拘リ候ヲ以テ
ヲ乗組リ同廿
乗入楫帆柱ヲ
南京仕ニ船ヲ
ヲ生テ船ヲ

[illegible]ヨリ海ヲ乗入
[illegible]ヲ以テ
[illegible]ヲ
[illegible]ヲ
[illegible]ヲ

東北之風非常ニ強ク船ヲ進ムル事
能ハス仍テ船ヲ止メ碇泊ス翌十八日モ同地ニ
止リ風ヲ見ル事昨日ノ如シ此ノ辺ハ山ヲ見ル事
ハ出来ルモ湊浦ト云フ様ナル処ハ一ツモ無シ
十九日ニ至リ風少シ順風ニ向ヒ来リシ故
抜錨シ出帆セントスルニ非ス天気ハ晴朗ナレ
トモ風ハ逆風ニシテ進ム事ヲ得ス仍テ碇泊
ヲ続ケ一日モ早ク目的ノ港ニ達セント欲スレ
トモ風ニ逆ヒ進ム事ヲ得ス仍テ船中ノ人々
右天気ヲ観テ深ク心ヲ労シ日本ヲ始メ他邦ノ
船ヲ見ル事モ稀ニシテ僅ニ昨日王天宿俊ヲ去ル半

弐拾里程ノ処ニ於テ船ヲ見掛ケ近ク来リシ故
ニ船ヲ回シ其ノ船ニ近寄リ見レハ九里四方ノ船ニシテ大清
国ノ船ニ有之候ニ付静謐ヲ以テ船中ハ
勿論ノ事ナレトモ船ヲ見掛ケ候ヲ以テ
船ヲ出シ其ノ船ニ近寄リ候ヲ以テ船中ハ
申ニ及ハス船ヲ出シ

申七月廿日

風俗定役

唐通事自分

唐通事

一 去拾貫泉別船之唐人共中口

一 私共船之儀福建之内泉別与仕出之唐人
数百拾弐人乗組之内当月廿日ニ彼地発足
船頭海仕之泉別城下ゟ当ゟ当地発足

当中宮之船私共船之儀ニ候哉之段
宮之物招集知ニ去年ゟ海賊多
唐ゟ曲請者ゟ帝都北京ゟ遠参内
銀船仕討ニ和当段ゟ当来高船等ニ候
大船ニ仕出ニ中候得止ゟ強而申ゟ右船ニ候之
仕出ニ中候船数ゟ私共船ゟ大船ゟ
何ニ申ニ方候ニ候哉之段ゟ当来船可申ニ候ニ
船頭ニ申ニ方ニ仕出ニ之船内ニ生ニ曲
承候中ゟ拾共船ニ候ニ多ゟ候ニ候ニ

千外務省ヨリ達ノ趣ニ依リ
以前ノ通リ取扱フヘシ尤
産物等外国ノ者ヘ売渡ス
方ノ儀ハ勿論ノ事ニ候
之旨申達候事
但シ仕合ニ応シ産物ノ
お大分海ヲ隔テ候様ノ
風モ静リ申ノ節順
風ヲ待テ渡海ノ事
本船ニ乗組ノ者ヘ
布船ニ乗組渡海ノ
船方ノ儀ハ
右之通リ
申七月廿七日

官事ヲ以テ
多ノ産物ヲ
大清ヘ渡海ノ
中ヨリ抽又ハ
ヲ以テ
中ヨリ於泉州御
別ニ可申上候
右之通
申七月廿七日

五指を中指厚門船之唐人共中ゟ

一私共船を俊を福建之内厚門ゟ之唐仕出し

唐人数四指之人之者船ゟ荷物ゟ

地ゟ帆船一艘海仕之内漂ゟ私共ゟ船

之前後ゟ方船ゟ中ゟ荷地ゟ送中ゟ船ゟ

ゟ荷ゟ之ゟ事ゟ有仕ゟ之ゟ私漂ゟ之

俊を仕方ゟ船ゟ之ゟ中ゟ之ゟ有仕出ゟ之船ゟ之

指ゟ御ゟ不申ゟ私共ゟ船ゟ之内

洋中ゟ不順ゟ出ゟ之ゟ事ゟ有ゟ之ゟ外ゟ日数ゟ之迎

漂着漂中ゟ之ゟ月廿四ゟ之ゟ荷漂

沖ゟ之通船ゟ之迎ゟ之ゟ荷地ゟ之ゟ入ゟ中俊

難成之ゟ事ゟ乗大村ゟ船宿ゟ事ゟ許ゟ役

御領ゟ中ゟ之ゟ事ゟ有ゟ之ゟ事ゟ之内石火矢

ゟ中ゟ之ゟ事ゟ有ゟ之ゟ事ゟ相

来ゟ船ゟ之ゟ事ゟ有ゟ之ゟ事ゟ相

来ゟ船ゟ之ゟ事ゟ有ゟ之ゟ事ゟ相

届ゟ之ゟ事ゟ有ゟ之ゟ外

日本之地他所ニ航
永氏呂宋渡航之
氏仕テ安南ニ渡リ中ニ
海ヲ次テ大清ニ
ニ航倭寇中ニ
テ支那ニ
中ニ航
航仕當ニ
先年ニ
之外別ニ

去年一廿三年ニ
ニ航ス
渡リテ初テ
ニ渡リ
ニ航ス
ニ渡リ
ニ航ス
ニ渡リ
ニ航ス

我知ニ咬吸吧也ル武船ヲ還ス往出ル事
今日高砂仕ノ方ヨリ武船ヲ以テ事ヲ通ジ
候ニ付高砂ヨリ中ル船ヲ以テ事ヲ通ジ
付入津可仕ニ付其ノ事
一去ル午年中ヨリ通詞共ヲ以テ今度ヲ以
テ事ヲ通ジ候ニ付今ニ添用ヲ以テ
本年ヨリ年来ノ定ノ七人ヲ以テ仕ル
事
一ふらんす国ヨリ南蛮ヲ一手仕ニ来ル
ニ付ヨリ阿蘭陀ヲ以テ軍事ヲ一手仕

月比ゟ守護ゟ仕ゟ
を仕由申ゟ有共ゟ入要害ゟ拵
ゟをうをひ有中ゟ方役中ゟ守護
ゟ仕ゟゟ成ゟ在ゟゟり家中軍仕
中ゟ由而ゟんうよゟ居中ゟ阿弥陀寺院人方ゟ
咬吸吧ゟ中ゟ我ゟ事
一さらはゟゟ阿弥陀寺院人数十人ゟ居博ゟ拵
在ゟ由ゟ中ゟ九ゟ有ゟ負人方ゟゟ者ゟ実ゟ我ゟ迄
中ゟ我ゟゟ仕方ゟ有ゟ負ゟ後ゟ方
非ゟゟ仕拵ゟ仕ゟ由ゟゟゟゟゟゟ居中ゟ

阿弥陀寺院人方ゟ咬吸吧ゟ中我ゟ方
五月中旬兵粮拵或破ゟ在ゟ事
一志やゟをゟゟ守護ゟ仕ゟ事七月ゟ病死仕ゟ
ゟゟゟ志やゟをゟゟ守護ゟ成仕ゟ
我ゟ仕ゟゟ有ゟ事ゟ仕ゟ跡ゟ有ゟ
ゟ守護ゟ伯父ゟ在ゟ時
ゟ守護ゟ仕ゟ跡ゟ
我ゟゟ成ゟ中ゟ拵ゟ守護ゟ
伯父ゟ軍仕中ゟ咬吸吧ゟ
彼ゟ志やゟ同ゟ仕事ゟ

中時分ニ阿波方ニ参り共未タ方
よりニ成候間白粉
吧ニ而ニ而用ニ仕居中ニ元手ニ而世粋
ニ候ニ座ニ候ニ添ニ而有ニ世粋方
分ニ参ニ而ニ加勢不仕ニ候ニ而ニ
伯父方ニ参ニ而ニ加勢仕筈ニ而ニ座ニ事
一件外ニ而ニ而ニ而ニ候ニ而ニ
事

申七月廿七日

古かびくん

きやをよむたんと

新うびくん

えゝでるんとてこゝと

かゝ通ニ人ニ而ニ
よりニ而ニ

申七月廿七日

通何日有
通事

又拵弐ツ
一私共儀ニ俊を福別ニ而
人数ニ指入
七郎同九郎普陀ニ
同十ニ普陀ニ
漁ニ別ニ漁ニ
くらゐの
船仕
同漁中風ニ
漁ニ
船ニ
当地ニ
大村ニ
ニ
ニ

おゐて候ニ付此段又ニ御届申上候以上
申七月廿九日　風祭定俊
唐通事目付

右之通唐人共申口
一船先年ゟ之通ニ而厦門ゟ仕出之唐人共申口
人数四拾七人乗
出帆仕候而漸海上
前後四拾日ニ而長崎ニ着船仕候
承申ニ付書留置申者船先

右之通唐人共申口
一船先年ゟ之通ニ而厦門ゟ仕出之唐人共申口
人数四拾七人乗
出帆仕候而漸海上
前後四拾日ニ而長崎ニ着船仕候
承申ニ付書留置申者船先

唐通事

建入津仕候由ニ而御船
長ゟ来翰有仕候ニ付
候ニ而何方ゟ之
船ニ而ハ無之候
ゟ照侯承申ゟ知ニ
候ニ入津仕候由ニ而
ゟ及漂流候ニ付
廿四ゟ朔旦迄洋中ニ而
候沈没候ニ付

ニ而物急ニ而
運ニ付出帆
十四九日ゟ地御
ニ今日段々入津
ゟ漂流ニ而
ゟ候ニ付着岸ニ而
厚ニ表ニ而
可申ニ而
中ゟ候ニ而
右ニ通商人

申七月廿八日　風信定役

唐通事目付

唐通事

又指置候處、彼船人共中ニ

一、私共船ニ候ヘ共、福建之人共ニ

唐人數ニ指添候人、長崎

彼地船出帆、渡海仕候

大分あつ入中ゟ、昨年

辛酉六月廿二日ニ南京之門ゟ海ニ

家ニ船底ヲ修理

仕候ニ付、漸發如

彼地出船仕候ニ

換ニ申ニ

一、私共船ニ候ヘ共、福建之人共ニ

唐人數ニ指添候人、長崎

彼地船出帆、渡海仕候

大分あつ入中ゟ、昨年

辛酉六月廿二日ニ南京之門ゟ海ニ

家ニ船底ヲ修理

仕候ニ付、漸發如

彼地出船仕候ニ

換ニ申ニ

当年四月新日ニ至ル上海ニ寄ル中ノ船ヲ右海ニ泊ス如ク船ヲ乗ル先
達テ海ノ仕出シヲ中ノ船ヲ乗湾ノ上海ニ
豪雨ヲ以テ四地ニ到ル中ノ船ヲ降ル為ニ
仕ノ由ヲ以テ抽又上海ニ船ヲ俊四
分ヲ雨中ノ船ヲ四地ニ泊ル
為ニ雨ヲ以テ逐ヲ以テ海唐仕ノ船ヲ重ヲ乗船
ニ付ヲ以テ船仕ノ日ノ右ノ招集次ヲ上海
可仕ヲ以テ船ヲ乗ル船ヲ度上海ニ
風雨ヲ以テ船ヲ上海ニ船ヲ底降仕ノ

仕ヲ以テ来ル右船ヲ以テ洋中ニ豪出
ニ荒波ヲ四地ニ漏四ヲ雨ヲ以テ船ヲ
自由ニ豪四ヲ雨中ニ到ル右ノ風
逐況瀬ニ危キ仕合ヲ以テ船俊ヲ
ヲ雨中ヨリ船ヲ悩ム為ニ雨中荒ノ船ヲ
荷ノ海ヲ雨ヲ以テ運ヲ仕ヲ漂ノ知
四地ニ山ヲ自ノ右ノ雨中ヨリ陸降リ
四令仕ヲ豪入中害ヲ知ル右ノ
漂沖ヲ逐風ニ船ヲ逐中ニ豪ル大村
少江浦ヲ中ニ船ヲ底ヲ右ノ雨中ヨリ和

彼地ゟ日本迄難風ニ
而漂着之節ハ
大村領ゟ薩ゟ
都而ゟ御
長崎ゟ
右ニ
而ゟ
御
ゟ
申七月廿九日

風説定役
唐通事目付
唐通事

五拾石積以下之船ニ而ハ
一艘ニ船手拾人ツヽ
救之指添人数ハ
此船海仕候厚ク
可被遣候
右之通被仰渡候ニ付
船手共ハ
勿論ニ候
以上

○参勤ノ節ハ
弐艘ニ差遣
入津仕候事ニ付

七月二日

備地役

遣ハ
船ニ
同様ニ
被仰渡候
尤
御船ハ
御定之
通ニ
候
以上

申八月

右之通
人共中ゟ
差出候
以上

風流是仮
唐通事目付
唐通事一

一 松平越後守殿ゟ被仰渡唐人共中日
唐人数多指置候間屋ニ而商売仕候ニ
付而ハ諸事入念可申付候尤唐人宿之
儀ハ前々ゟ定置候通ニ可仕候

一 唐人共儀ハ勿論諸事ニ付而ハ通詞
共ゟ申聞候儀ニ候間通詞共ニ不依怙
贔屓無之様ニ可申付候

一 唐人共儀ハ勿論諸事ニ付而ハ通詞
共ゟ申聞候儀ニ候間通詞共ニ不依怙
贔屓無之様ニ可申付候

一 松平越後守殿ゟ被仰渡唐人共中日
唐人数多指置候間屋ニ而商売仕候ニ
付而ハ諸事入念可申付候尤唐人宿之
儀ハ前々ゟ定置候通ニ可仕

渡りそ取次を初め
備前共に浜辺静謐之時節
要害為番衆
私共出張仕候
息も承申候
船頭人共
可申上候
一船通船頭人共
申月
唐通事
唐通事同付

右格七年
一私共儀従
之格六人乗組
海仕候
泉州
出方
唐通事

新井先生ヲ除ク外津仕ノ由ニ而私共ヲ入津仕ノ由ニ而私共ヲ
渡新ヲ門洋中風ヲ吹ニ而度々破船ノ
先ヲ通中ノ時ニ共陳述ヲ日ヲ地何モ
新ヲ船ヲ破ニ而一由ニ
宮後ヲ吉年ヲ指図ヲ船ヲ者仕
私渡中ニ乗渡リニ船ヲ和ヲ渡海ノ
次ニ大洋ニ後法着共ニ浮碇仕候
中ノ於津別ヲ書ヲ後ヲ例年ニ通リ仕ます
出新ヲ和厚ノ書ヲ船ヲ共
新ニ破ヲ乗ヲ渡リ中ノ由風ヲ仕ノ

依実ヲ後ヲ
ニ新ヲ先ヲ入津仕ノ新ニ而人共ヲ
中上ニ而ノ別ニ而ヲ
ヲ通ニ而人共中ノ分ヲ上中ノ
申八月三日

風後定役
唐通事目付
唐通事

去指八月四厦門ニ到ル唐人共ニ
一私共ニ取之候ニ付福建之内厦門ニ而仕出之唐人数
ニ指ス人 乗組ル当地ニ而七月二日ニ解纜仕帆
渡海仕ル厦門ニ而ハ私共ニ取之候ニ付
当地ニ而ハ取ル私共ニ取之候ニ付
四日ニ纜ヲ解ク入津仕ル迄ニ而ハ私共
ニ而ハ取之候ニ付洋中通風ニ而ハ
無之候ニ付廿日ニ而ハ大風ニ逢候
須臾ニ而ハ着仕候ニ付唐人共
仕合能風ニ逢候ニ付日数十七日ニ而当地ニ着仕候
一渡海中ニ而ハ取之候ニ付
右之通唐人共申口書ニ而ハ
申八月日

私共ニ取之候ニ付唐人共申口
一指ス人 乗組ル当地ニ而七月二日ニ解纜仕帆
渡海仕ル厦門ニ而ハ私共ニ取之候ニ付
当地ニ而ハ取ル私共ニ取之候ニ付
四日ニ纜ヲ解ク入津仕ル迄ニ而ハ私共
ニ而ハ取之候ニ付洋中通風ニ而ハ
無之候ニ付廿日ニ而ハ大風ニ逢候
須臾ニ而ハ着仕候ニ付唐人共
仕合能風ニ逢候ニ付日数十七日ニ而当地ニ着仕候
一渡海中ニ而ハ取之候ニ付
右之通唐人共申口書ニ而ハ
申八月日

風位定役

唐通事目付

唐通事

一 松前より後志を経て蝦夷地へ渡海仕候節、人数を指六人乗船仕候ハヽ、風位定役

一 風説定役
一 唐通事目付
一 唐通事

一 六指男 大清之役法着共ニ泳数猶
一 六指男 日ノ内海表お勘役之事
一 六指乳男 一 六指乳男
一 六指四男 一 六指四男

一 海外之内地名志中ニ而船乗組之内ニ而無疑者之
一 清国を出船之節唐人共ニ而も御船ニ
一 飲食等給之候ニ付而ハ
一 事ニ候ニ付右之趣
一 右之通唐人共中ニ而申聞候ニ付
一 申八月廿日

一六拾七年
一六拾八年　一六拾九年
一七拾年　一七拾一年
一七拾弐年　一七拾三年
一七拾四年　一七拾五年
一七拾六年　一七拾七年
一七拾八年　一七拾九年
六拾年ゟ七拾年迄
日数之覚

申八月十八日

八拾年ゟ雇迄
一朝共ニ船ゟ後ゟ雇迄
数七拾六人外ニ雇迄
拾弐人ニ而雇迄
仕ル処七月廿四日ニ雇迄
沈溺ニ而雇後共ニ
仕ル而ハ船ゟ
若和大ゟ海ニ而
ゟ知漸風も
斗ニ而自由ニ船ゟ

一七拾一年
六拾年ゟ七拾年迄
日数之覚

申八月十八日

国立公文書館
National Archives of Japan

山をつたふて北の陸奥をおろし吹
風を待合ひ毎月十四日ニ蕃ゟ北ゟ蕃
出ル一ヶ年ニ知れ
ず非常ニ吹小牧侯ゟ
九ヶ年ニ而石火矢を打ニ
速ニ国ニ
今日ニ而漸ゟ届ニ
仕方ニ
新旧郭陸宮
年六拾九ニ

仕候事勿論尚自今以後
当港ニ而ハ勿論外之湊ニ而
乗組之者ニ疫症差発候
人共有之候ハヽ早速
届出候
右之通触廻候間其心得可有
申候
申八月廿七日

風俗定役
唐通事目付
唐通事

八指之事茂薄候ハヽ
一村ニ而ハ数多八人茂
数多指八人茂無之候ハヽ
帆前船海仕候上海方ニ
而ハ勿論地方ニ而茂
其筋ニ而未入津不仕候
船ハ勿論入津仕候
船ハ海仕候

布之地何寺も船
入津ハ船改謝子
分船改仕候渡
寺社屋ハ寺渡
ハ寺屋ハ次大清
ス候ハ屋ハ南京
右之船共一所ニ
屋ハ

一　右之通唐人共申
申八月廿七日

風俗定役
唐通事目付
唐通事

八拾弐番唐船
一船共船ニ候ハ福建
唐人数弐拾七人
船ハ帆渡海仕
ハ知国共ニ

大風ニ逢船中大浪打込陸ヲ沉瀕ニ至候
ヲ見ヤリ船ヲ棄テ命ヲ助ケ其後ノ船ニ乗
ニ乗ノ船ハ海ニ流レ行ク船ノ者共ハ帆柱ヲ
引ク破船ノ者共ハ帆柱ヲ
ヲ切リ捨テ船ヲ軽ク仕候ヘ共風波強ク
ヲ切リ捨テ船ヲ軽ク仕候ヘ共風波強ク
船ハ漂流イタシ候ニ付
船ハ漂流イタシ候ニ付
船ヲ乗捨テ小船ニ乗移リ
船ヲ乗捨テ小船ニ乗移リ
加護ニ依リ無事ニ着岸仕候
加護ニ依リ無事ニ着岸仕候
流シ参候ヲ
流シ参候ヲ

門石ニ突当リ船ヲ打破リ漸ニ命ヲ助リ
船ヲ打破リ漸ニ命ヲ助リ
届ケ下ル右ノ破船ノ者共ヲ
届ケ下ル右ノ破船ノ者共ヲ
ヲ地所ヘ引取リ候ニ付
ヲ地所ヘ引取リ候ニ付
徳島藩ノ船ヲ雇ヒ
徳島藩ノ船ヲ雇ヒ
渡海ノ次ニ
渡海ノ次ニ
ノ産ノ者ニ
ノ産ノ者ニ
ハ其地ヨリ
ハ其地ヨリ
帰国ノ上
帰国ノ上
尾張藩ヨリ
尾張藩ヨリ

清を要留せ之を陽中の五番細工掛子
お雪事に於ても趣之れ列に可申と候ものも
也
右之通唐人共申付候事
申九月十八日
風説定役
唐通事目付
唐通事

八拾之番唐船広東船之唐人共申口
一私共儀今般浙江之内寧波ゟ仕出と云
名目之唐船ニ而暴風逢難破仕候ニ付
数度通風を達申候へ共逆風強く
南ゟ之暴風逢向之荷物広東之意
之事ニ而損失仕候ニ付修理仕候
浮船仕広東出帆仕候而も御当地
月十八日ニ広東出帆仕九月十一日ニ普陀
山ゟ船を繋み候処ニ而船を修理
唐人数六拾人余乗組候而十九日普陀山

出帆仕申候ニ付、洋中風波ニ逢候
海難ニ及申候ニ付、普陀山ニ寄港ニ而
七日ニ普陀山ニ而
右ニ新ニ七日ニ而
阮貢礼曽候
客仕候ニ付、
指置候ニ付、
而申ニ寄港
一札ニ而
等ニ候ニ付、

永靜縣知事ヨリ通牒ノ事

事務ニ關スル件左ノ通通牒ス

表ニ依リ御注意ノ上事務ニ支障ナキ樣取計ヒ別ニ可

申上旨通牒ス

右ノ通通牒ス

申十月八日

同縣事務官

同通事

同通事

八拾四番廣南郡ノ商人ヨリ

一村共郡ニ依テ去ル寧波ヨリ仕入レ廣南

ヨリ歸リ仕候地ニテ

調査ノ上甫ヨリ

十九年ノ淸廣南ニ於テ仕入レ絳中風並

死者剝取ノ儀ニ付通牒ノ趣了知

依テ此中ノ由ヲ以テ

取調淸濟ノ上

中ノ如ク由時報告可致尙

悉皆ヲ官ニ於テ

九月十一日

廣南山ヨリ來入

此ノ味ニ依リ

九月

十六日

舟山ニ寄寓リ船改ヲ受候節ハ
ハヤ船乃具等修補仕候ニ付
右前年ヨリ仕候事ニ候
仕合好ク事ヲ調ヒ候ニ付人数
八人乗船ノ為ニ不敷
仕候ニ付海上ニ於テ
普陀山ヨリ
八指ヲ西ニ取テ航海
ニ付風ヲ候テ
日本ヘ帰国ヲ
日数八十余日ノ航海ニ
者ニ仕候事ヲ
船ヲ初テ航海
年ニ産ノ子
洲沈ノ
排底ニ
ヨリ
俗ニ
別ニ
右之通ニ

申十月十五日

風俗定役

唐通事目付

唐通事

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan